

## 安全の脆弱性への感性 - 非常に重要な安全要素

2023年6月



硫酸を扱うプロセスエリアを歩いていた人が、窒素のホースを外そうとしているオペレーターに気づいた。オペレーターは、フェイスシールドなど、そのエリアに必要な保護具（PPE）を完全には着用していなかった。その人が立ち止まり、保護具のことを指摘すると、オペレーターは素直に従った。指摘した人が数歩も進まぬうちに、硫酸エリアから“ポン”と“シューツ”という音が聞こえた。オペレーターは酸をかぶったが、最寄りの安全シャワーに救われた。

オペレーターは、窒素ホースに硫酸が逆流していたことを知らずにいた。ホースを外したとき、圧力でオペレーターの顔と体に酸が降りかかった。必要な保護具を着用していたため、オペレーターは首にわずかな薬傷を負う程度で済んだ。

事故調査をする中で、オペレーターのフェイスシールドの酸があたった中央部はひどく腐食し、痕が残っていたことがわかった。フェイスシールドをしていなかったら、オペレーターは深刻な薬傷を負い、失明する可能性があった。

なぜ指摘した人は立ち止まって、オペレーターに保護具の完全な着用を促したのか。それこそが安全の脆弱性に対する感性である。窒素しか入っていないはずのホースに、酸がある可能性を予見していたのである。

### 知っていますか？

- 「安全の脆弱性への感性」とは何を意味するか？それは、工場のすべての人が：
  - エリア内で使用されている物質やプロセス条件（圧力、温度など）に関連する危険性を理解していること。
  - 小さな漏れから配管の重大な事故に発展するような、より深刻な事態に繋がるような弱点の兆候について常に警戒していること。
  - 工場の安全成績が良くても気を抜かないこと。
- 日常生活において、悪天候時に運転速度を落としたり、はしごで作業する時により慎重になったりすることは、安全の脆弱性に対する感性である。
- 急いでいるときには、安全の脆弱性に対する感性がおろそかになることがある。そのために手順を省略したり、正しい保護具の着用を忘れてたりすることがある。
- 新規の従業員は、安全の脆弱性について以前の仕事や会社で培った自身の感性を持ち続けているかもしれない。そのため彼らに新しい仕事の危険性を理解させる必要がある。
- 安全の脆弱性に対する感性を維持することは、優れたプロセス安全文化の本質である。

### あなたにできること

- もしリスクのある行動を目撃したなら、立ち止まって、正しい手順を守っているかを尋ねること。それにより、誰かが重傷を負ったり、もっと悪いことが起きたりすることを防ぐことができる。
- もし誰か、あなたのしている作業を止めて、その方法について尋ねてきたら、身構えないこと。彼らはあなたを守ろうとしているのである。彼らの質問に冷静に答え、作業方法に関する彼らの提案に耳を傾け、あなたの安全を気遣ってくれたことに礼を言うこと。
- 職場に新規の従業員が来た場合、職場の危険性と手順について指導すること。彼らの安全に手を貸すこと！
- 「ここでは起こりえない」などとは考えないこと。それは起こり得るのだ！

## 安全の脆弱性への感性 - プロセス安全の「予知能力」